

槌渡義一作中山人形

(幅20・2デシ)×奥行10・8デシ)×高さ21・3デシ)



写真2

が流行したりするうちに、人々は「道真が天の神になったたりを起こしている」と考えたからである。道真の霊を鎮めるため、947（天曆）年には京都の北野に天満宮が建てられた。天神は人々に災いをもたらずと恐れられたのである。

天神信仰が全国に広まったのは、鎌倉時代に「天神縁起」の絵巻物が作られるようになってから

らなされる。餘程には、道眞の一生と亡くなつてから天神として祀られるようになった由來が描かれ、信仰する人々がその繪巻を見ながら各地で広めた。これにより、天神は農業の神から道眞を指し考へが濃透していく。同時に各地の天神社が天満宮と混同されることもなつた。まなな道眞が學問に秀でたことから、江戸時代には、子どもたちの教育

道真の死後 信仰変化

展覧会「子どもの成長を願う」天神人形

天神は本来、雨を降らせ雷を鳴らす天の神であつた。そのため、農業の神としても祀られた。それが平安時代になると、藤原氏によつて大宰府に左遷されて亡くなつた菅原道真（845〜903年）を指すようになった。道真の死後、京の都で雷が落ちたり、悪い病氣

展示・収蔵品より

美を知る

367

県立博物館
(秋田市)

高松茂子作 八橋人形
(幅35・2センチ×奥行き22・5センチ×
高さ44センチ)



写真1

道川十八作 八橋人形

(幅43・5センチ×奥行15・5センチ×高さ42センチ)



写真3

の場であつた寺子屋でも祀られた。

八橋人形は、京都の伏見から移り住んだ人形師が始めたといわれる郷土人形である。写真1は、高松茂子がつ作た天神の八橋人形。秋田では男の子が生まれると、天神人形を買つて4月ごろから飾る習慣があつた。秋田市内では「オデシツア」と呼ばれ、地元八橋の菅原神社の例祭に合わせて飾ら

中山形は、明治の初めごろ、平鹿郡田村村山（現横手市平鹿町）で野田吉、樋渡ヨシによって誕生した土形である。昭和にはヨシの孫である樋渡義一が横手人形を称し、秋田を象徴する行事や風俗などを題材とした新作を生み出した。写真②の天神の中山人

形は樋渡義一の作である。

雪の三乗より八幡が、
「道川和尚の作。道真と牛を
つづける言ひなを説いて。」道
真は言へて、亡くなった時
にはきかぬ道すがら伏して動
かなくなつたところその遺體
墓所にてに伝へたる。」道と
牛は切つても切れは関係保。
神祕は物や衣、板などに貼
り付けられたものであ。天神御祭
りに當つたには、天神御祭
りに明治三年三月日男界、
初八年三月日女界、明治
初九年三月日男界、明治初
年家にお賣。天正九年正月
日瑞太郎初神賀佐寄送。日
々成長長盛い。妻代々云に
受け継がれたことだといふ

(歌紛ふ)

（県立博物館学芸主事・深浦直人）

又王 展覧会「子どもの成長を願う～天神人形～」は6月16日まで。天神人形や天神の押絵10点を展示している。開館時間は午前9時半～午後4時半。入場無料。月曜休館（祝日の場合は翌平日）。
県立博物館 ☎018・873・4121

写真4



左・1892（明治25）年に買い求めた押絵（幅38.3センチ×高さ38センチ）
 中・1895（明治28）年に買い求めた押絵（幅31.5センチ×高さ27.7センチ）
 右・1920（大正9）年に寄贈された押絵（幅36.6センチ×高さ34.5センチ）